

引用と典拠の示し方

なんらかの資料（図書、雑誌、新聞記事、インターネット）から引用した場合にはかならず引用符（「 」）をつけて示さなければなりません。典拠（引用した資料）は脚注に示すか、本文に組み込んでください。

- ・ 短い引用：引用文は一重カギ括弧「 」で囲む。
- ・ 長い引用：引用文の前後を1行空ける。括弧は不要。引用文であることが明白なように、全文にわたって行頭から全角2文字分下げて記載する。

※レポートの中での引用は、量的には本文全体の3分の1までを原則とする。

ただし、数多くの「事実」を引用の形でとりあげ、それを論拠としながら自分の主張をはっきりと述べる場合には、引用の量がさらに多くなることもあり得る。

（なお、論説・論文からの引用 — 引用としての形式をしっかりとふまえ、出典も明示されていなければならない — は「事実」とみなされる）

※原文をそのまま忠実に引用しなければならない。引用文に誤りや問題がある場合には、そのむね注記すること。（誤りや問題がある箇所のすぐあとに〔ママ〕と補う。【例】「（……）国際間の強調〔ママ〕が必要であることは言うまでもない」）

※自分の言葉で要約した場合は引用符はつけなくてもよいが、典拠は示す必要がある。

（直接引用しない場合でも、他者の主張や意見、あるいは他から得た資料・データを取り上げる場合は、情報の出所を明示する必要がある。）

※引用の仕方、注の付け方（典拠の示し方）については別紙「引用の仕方と注の付け方：例」参照

引用文献の表記方法

- ・ 単行本：(1) 著者氏名、(2) 本のタイトル（翻訳書の場合、訳者名を加える）、(3) 出版社、(4) 発行年、(5) 引用文の所在頁、の順。
- ・ 雑誌：(1) 著者氏名、(2) 論文等のタイトル（翻訳論文の場合、訳者名を加える）、(3) 雑誌名、(4) 発行年月、(5) 引用文の所在頁の順。

表記例

- ・ 単行本の場合：
渡邊義愛『ホイスト・ゲームのカードの裏側』、国書刊行会、1998年、99-100頁。
- ・ 雑誌論文の場合：
橋本一明「不幸への捨身」、『世界文学』第4号、1966年9月、34頁。
- ・ 新聞の場合：
新聞名（発行地）、年、月、日。ページ数は不要。

▼本文に文献情報を入れる場合

TPPに関しては「食への不安はもちろん、農民の流民化、田舎の荒廃、無秩序な都市化もまた防がなければならない」（遠藤乾「グローバル化2.0—TPP賛否両極論を排す」、p75.）と遠藤も述べるように、……だ。

▼脚注に文献情報を入れる場合

TPPに関しては「食への不安はもちろん、農民の流民化、田舎の荒廃、無秩序な都市化もまた防がなければならない」と遠藤も述べるように、……だ。

¹ 遠藤乾「グローバル化2.0—TPP賛否両極論を排す」、p75.